

令和8年4月に小学校に入学されるお子様の保護者の方へ 札幌市保健所・札幌市医師会から重要なお知らせです

予防接種はお済みですか？

① 麻しん風しん予防接種(第2期は令和8年3月31日まで)

麻しん(はしか)は感染力が強く、小さなお子様がかかると重症化しやすい病気です。麻しんは海外での流行が報告されており、今後、国内においても流行する可能性があるため、注意が必要です。

風しんも感染力が強く、小さなお子様がかかった場合、比較的症状は軽いですが、まれに脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症を引き起こすことがあります。また、妊娠中にかかると赤ちゃんに感染し、耳が聞こえにくい、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある等の「先天性風しん症候群」にかかってしまうことがあります。

麻しん(はしか)・風しんの感染予防法として、ワクチン接種が最も有効な手段になりますので、接種を受けることをご検討ください。

麻しん(はしか)・風しんの定期予防接種は、**1歳(第1期)と小学校入学の前年度(第2期)の2回接種となり、第2期の定期予防接種の対象期間は令和8年3月31日までです。**

※令和8年4月1日以降に接種する場合は、任意接種となります(接種費用は本人負担)。

※麻しん(はしか)と風しんの両方に確実にかけたことのある方は、接種の必要はありません。

※令和7年4月1日から今までに、すでに麻しん風しんの予防接種を受けたお子様は、3月までにもう一度受ける必要はありません。

定期接種対象年齢(令和7年度)

平成31年4月2日～令和2年4月1日までに生まれた方

対象期間と接種回数

令和7年4月1日～令和8年3月31日までの間に1回
(小学校入学の前年度)

使用するワクチン

麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン※注射生ワクチン)



② 日本脳炎予防接種(第1期は7歳6か月まで)

日本脳炎は、蚊(日本では主にコガタアカイエカ)によって運ばれるウイルスの感染によっておこる脳などの病気です。患者の発生は近年では毎年10人以下が西日本を中心に発生するに留まっており、北海道における患者の発生はありませんが、北海道内においてもわずかながら感染の可能性があること、北海道外の患者発生地域への移動機会が増えていることなどから、平成28年4月より北海道でも定期予防接種となりました。

※第1期の3回接種が7歳6か月までに終了できず、7歳6か月を過ぎてから第1期の不足回数分を接種する場合は、定期接種になりません(接種費用は本人負担)。

※日本脳炎ワクチンは不活化ワクチンです。

定期接種対象年齢及び回数

【1期】対象年齢：生後6か月～90か月(7歳6か月)に至るまでの間に3回

1回目から6日以上(標準的には6～28日)の間隔をおいて2回目を接種。

2回目から6か月以上(標準的にはおおむね1年)の間隔をおいて3回目を接種。

【2期】対象年齢：9歳～13歳未満の間に1回(標準的な接種年齢は9歳)



◆ その他の予防接種 ◆

ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ・ヒブ(五種混合※不活化ワクチン)の予防接種については第1期を7歳6か月までに接種します。接種が完了していない場合は、医療機関でご相談ください。

● 持っていくもの

①氏名・年齢・住所を確認できるもの（マイナンバーカードなど） ②母子健康手帳

※予診票は、市内の実施医療機関や各区保健センターでお渡ししています。



● 料金及び接種場所

札幌市に住民登録のある対象年齢の方が、市内の実施医療機関で接種する場合は **無料**

※実施医療機関は、札幌市ホームページでもご覧いただけるほか、札幌市コールセンターでもご案内しています。

予約が必要な場合がありますので、あらかじめ実施医療機関にお問い合わせください。

なお、札幌市コールセンターではワクチンの在庫に関するお問い合わせには回答できません。

札幌市 予防接種

検索

<https://www.city.sapporo.jp/hokenjo/f1kansen/teikiaruimeibo.html>



● 予防接種の効果と副反応

◆ 麻しん風しん混合ワクチン

【効果】1回接種することによって95%以上、2回接種することで99%以上の方が麻しんと風しんを予防することが可能な免疫を獲得すると言われています。

【副反応】副反応として、発熱、発疹、接種部位の赤み、腫れ、しこり、じんましん、リンパ節の腫れ、関節痛、熱性けいれんなどがみられます。

まれに、アナフィラキシー様症状¹⁾、けいれん、血小板減少性紫斑病²⁾などの重い副反応も報告されています。

◆ 日本脳炎ワクチン

【効果】日本脳炎ワクチンは、3回の接種で日本脳炎の発症を予防することが可能なレベルの免疫を獲得し、その後概ね5年から10年毎に1回接種することで、免疫を維持することが期待されています。

【副反応】副反応として、発熱やせき、鼻水、発疹、接種部位の赤み、腫れなどがみられます。

まれですが、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)³⁾、脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病などの重い副反応も報告されています。

● 効果と副反応を考慮のうえ、お子様の接種についてご判断いただきますようお願いいたします。

● 予防接種後、副反応と思われる症状等で心配なことがありましたら、接種した医師にご相談ください。

1) アナフィラキシー：呼吸困難、じんましんなどを症状とする重いアレルギー

2) 血小板減少性紫斑病：血小板の減少により、出血しやすくなる病気。皮膚の下で出血して青あざができることがある。

3) 急性散在性脳脊髄炎 (ADEM)：頭痛、嘔吐、意識の低下などを症状とする脳などの病気

● 別の種類の予防接種を受ける場合の接種間隔について

麻しん風しん、日本脳炎、五種混合を接種する場合の接種間隔に制限はありません。

なお、注射生ワクチンを接種後、別の注射生ワクチンを接種する場合は、27日以上接種間隔を空ける必要がありますが、片方が不活化ワクチンの場合には、接種間隔に制限はありません。

◆ 健康被害の救済制度

ワクチンの接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障がいを残すなどの健康被害が生じた場合には、申請することにより補償を受けられる場合があります。詳しくは接種した医療機関や札幌市保健所にお問い合わせください。



お問い合わせ先



● 予防接種に関する一般的な注意事項や実施医療機関は、札幌市コールセンターでご案内しています。

札幌市コールセンター ☎ 222-4894 [年中無休 8:00~21:00]

● 予防接種に関するご相談などは実施医療機関や各区保健センターにお問い合わせください。

各区保健センター（健康・子ども課）月～金（祝日を除く）8:45~17:15

○中央保健センター ☎ 205-3351

○北保健センター ☎ 757-1185

○東保健センター ☎ 711-3211

○白石保健センター ☎ 862-1881

○厚別保健センター ☎ 895-1881

○豊平保健センター ☎ 822-2469

○清田保健センター ☎ 889-2047

○南保健センター ☎ 581-5211

○西保健センター ☎ 621-4241

○手稲保健センター ☎ 681-1211

【発行】札幌市保健福祉局保健所感染症総合対策課 ☎211-8189

SAPPORO



札幌市医師会
SAPPORO MEDICAL ASSOCIATION



さっぽろ市
02-F06-25-1815
R7-2-1258